

東レ理科教育賞受賞者代表挨拶

山口県立徳山高等学校教諭 末 谷 健 志



東レ理科教育賞受賞者を代表してご挨拶申し上げます。

この度はこのような素晴らしい賞をいただき、大変光栄に存じます。

今、15年前に参加した東レ理科教育賞の贈呈式を思い出しています。この式に東京大学の小柴昌俊先生が参列しておられました。懇親会の際、小柴先生は私に「君は研究を続けるべきだ。ポケットにいくつかの卵を温め続け、孵る日をじっくり待つんだよ。」とエールをくださいました。このおかげで私の研究が続くことになりました。

以降、機を見ては卵を拾い、温め続けました。様々な回り道をしてきましたが、その積み重ねが今の教員として、末端の研究者としての幸せな自分をつくっていることに気づかされます。

私の郷土である山口県の偉人、吉田松陰は志を以って万事の源とすると述べています。彼の松下村塾で学んだ高杉晋作、伊藤博文、山縣有朋らが、継いだ志をエネルギーにこの国の礎を築きました。さらにまた、大学時代の研究でお世話になり、15年前にエールを下さった小柴先生は、ニュートリノをみるという高い志をもち、ひたむきに研究を続けられた方でした。私はその姿に憧れ、少しでも近づこうとして今の自分があります。

次は私、私たちの番だと感じています。教育の基本は模倣です。かつて吉田松陰や小柴先生がそうされたように、私たち大人が、教師が志をもってひたむきに前進するところに次の世代が育っていくはずです。

そして15年前のように、この贈呈式をゴールではなく、志を立てる新たなスタートの日にしたしたいと思います。

東レ科学振興会の関係者の皆様をはじめ、多くの方に支えていただいたことに深く感謝申し上げます。本日は誠にありがとうございました。